

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回飯塚市図書館運営協議会
開催日時	令和元年6月19日(水) 14時00分～15時52分
開催場所	イイツカコミュニティセンター3階 セミナー室
出席委員	後藤委員 白瀧委員 木村委員 平野委員 瓜生委員 高田委員 和多委員 大塚委員
欠席委員	山本委員 西田委員
事務局職員	【指定管理者(図書館流通センター)】芳野図書館長 瓜生統括チーフ 【教育委員会】原生涯学習課長 平田生涯学習課長補佐 村岡中央公民館・図書館係長 田中生涯学習係長
	<p>1 開会のことば 14:00</p> <p>2 委嘱状交付、委員紹介 今回新任委員3名。 学校教育関係者：近畿大学九州短期大学図書館長 瓜生 隆弘氏 学識経験者：筑豊教育事務所主任社会教育主事 大塚 忠生氏 家庭教育の向上に資する活動を行う者：西田 由紀氏 (飯塚市小中学校PTA連合会) ※欠席 課長より、瓜生委員及び大塚委員の2名に委嘱状を交付。</p> <p>3 教育委員会あいさつ(原課長) 日頃より図書館運営をはじめ、社会教育活動、学校教育活動の発展等、格段のご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。 図書館は、年齢に関係なく誰でもご利用いただける生涯学習施設であり、他の公共施設と比べても利用者の多い施設であることから、図書館行政に対する市民の関心は高いものと思われます。 一方で、全国的に図書館をとりまく環境は非常に厳しく大きく変化してきています。インターネットの普及により相対的に図書館の地位は低下しているのではないかという指摘もあり、少子高齢化の中で図書館の使われ方や使われる層が刻々と変化している中で、県立図書館、市立図書館それぞれが図書館のあり方を議論している状況にあります。 飯塚市においても、平成23年度をピークに貸出利用者及び貸出冊数ともに、年々徐々に減少の傾向にあります。これも電子媒体の普及や図書館を取り巻く環境の変化によるものだと思われ、今後の重要課題でもあります。 最近耳にする話題では、公立図書館でありながら課題解決のための“情報を提供する館”として「札幌市」において図書・情報館が開館されたと聞いています。貸出しをしない新しい図書館のスタイルで、その日に集中して情</p>

報等を得ることができ、貸出し中となる資料がないため、いつでも本が読めるようになっていて人気もあるとのこと。

図書館運営やイベント等にもアイデア、工夫が重要だと考えておりますので、今後とも、委員の皆様には、社会教育、学校教育、図書館利用者等なども含めまして、さまざまな観点から、図書館運営全般に対する率直なご意見を頂き、より良い図書館づくりを進めていきたいと思っております。

中央公民館・図書館係長（以下「係長」と記載。）より、図書館運営協議会の活動内容等について説明。

4 議事（報告・協議事項）

以降の進行は、後藤会長が行う。

（1）2019年度飯塚市教育施策要綱について

資料に基づき、課長補佐より説明。

【説明要旨】

- ・本要綱は第2次飯塚市教育施策の大綱に基づき毎年度教育委員会各課が実施する主な施策をまとめたもの
- ・主に社会教育・生涯学習及び図書館行政に関する変更点について説明。
- ・1ページ「教育の基本理念と基本目標」について変更なし
- ・5ページ「6. 幼児教育の充実」に、庄内生活体験学校で実施されている幼稚園・保育園等就学前児童を対象とした事業が安定して実施されるようになったことから、より一層の充実を図るために「就学前児童への生活体験活動の実施」を追加
- ・8ページ「1. 現代的・社会的な課題に対応した生涯学習等の推進」においては、学習・情報の拠点となる中央公民館における生涯学習事業の推進のため、「1-1 様々な学びの機会や情報提供の充実」に「中央公民館市民講座」を追加し、これに基づき今年度は新規講座・事業を実施する予定
- ・9ページ「1-5 読書活動の推進」について、本市・嘉麻市・桂川町による定住自立圏形成協定が締結され、2市1町での図書館相互利用が可能となったことから「図書館の相互（広域）利用の促進」を追加

【委員】質問・意見なし。

（2）2019年度生涯学習課所管事務の概要について

資料に基づき、課長補佐より説明。

【説明要旨】

- ・本書には生涯学習課の組織図、所管施設の概要及び所管事業のうち主なものを抽出し、その情報を記載。
- ・1ページに現在の組織体制を記載。職員数に変更なし

- ・ 5 ページに指定管理者の情報について記載
- ・ 2 ページから 3 ページに所管事務事業の概要を記載
- ・ 3 ページに主な事業の概要を記載。昨年度提示資料には記載がない部分。今回追加をした理由は、4 月に市議会議員の改選が行われ、改選後最初の 6 月臨時議会において所管事務の調査が実施されることとなっていたため
- ・ 提示資料と同内容を市議会福祉文教委員会所へ回答として提出済み
- ・ 生涯学習課は主な事業として、学社連携、図書館、青少年育成、高齢者（アクティブシニア）の生きがい作りを選定して記載
- ・ 図書館行政については、ブックスタート事業の平成 28 年度からの過去 3 か年の実施回数、予定者数、実施者数、実施率、ボランティア参加数を記載
- ・ 5 ページに所管する施設の概要と指定管理の状況を記載

【A 委員】ブックスタートボランティアに学生を参加させたい。依頼を出していただければ参加が可能と思われる。

【B 委員】既に夏休みの 8 月、9 月に数名ずつ参加していただいている。水曜日と木曜日の午後 1 時頃にブックスタートは実施しているため、学生は授業等があるため通常は参加が難しいのではないかと。

【図書館長（以下、「館長」と記載）】A 委員の言われるのは年間を通しての協力という認識でよいか。

【A 委員】よい。ボランティア部、幼児教育研究部各 20 名ずつ、計 40 名学生がいるので、いろいろと声がけして欲しい。

【館長】改めて具体的にお話はさせていただく。

（3）2018 年度飯塚市立図書館利用状況・業務報告

資料に基づき、館長より説明。

【説明要旨】

- ・ 各館の貸出人数、貸出冊数及び来館者数の昨年度対比
- ・ 各種事業の参加者数及び工夫等を報告
- ・ 特記事項として、管内でのケガやその対応について報告
- ・ 相互貸借の貸出館を筑穂図書館としたため、他館も含め貸出冊数に増減が生じている
- ・ 来館者数は飯塚、筑穂、庄内の 3 館はセンサーで集計し、穂波、穎田の 2 館は手動カウンターで集計
- ・ センサーの老朽化によるものと思われるが、入館者数の増減が激しく正確な数字か疑義があるため対応を検討中
- ・ 庄内は平日昼間の子どもの利用が増加
- ・ アビスパ福岡との協定によるカップ戦は昨年度で終了

【C 委員】相互貸借の冊数は筑穂図書館で集計され、他館ではあがってこな

いという認識でよいか。

【館長】 その認識のとおり。貸出しは筑穂図書館、借受けは他の図書館で行っている。

【B委員】 7ページのボランティア養成講座は、図書館ボランティア、小学校で読み聞かせをする保護者向けなどを実施しているが、開催場所が筑穂が多いようだが何か理由があるか。筑穂と聞いただけで遠く感じてしまう気がする。

【館長】 ボランティア養成講座は、図書館ボランティアと小学校の保護者向けとブックスタートの3種類を実施し、これらを飯塚、筑穂、庄内の3館で回して開催している。たまたま、今年は保護者向け養成講座が筑穂となっており、昨年度は筑穂で図書館ボランティア養成講座を開催していた。ブックスタートの講座は毎年の開催が困難なため、2年か3年に1回担当館を決めて開催している。

【B委員】 2月の図書館ボランティア養成講座の受講生はボランティアグループには入らなかったのか。

【館長】 既存のボランティアグループに入っていたか、2人以上であれば新たなボランティアグループを設立しても結構ですとお声がけもしているが、各々で申し込みをされているということもあり、意見が合わない等の理由から参加を見送られている。

【C委員】 貸出冊数については、昨年度の運営協議会でもきちんと数を取り切れなかったとか、少しカウントがおかしかったとかいう話だったが、あまり信頼性が高くないのであれば今後システムを交換するときに、嘉麻市、桂川町との図書館相互利用のことも考慮し、飯塚市も他の自治体と親和性のあるより良いシステムを入れるべきではないか。システム交換は市の業務かもしれないが検討をお願いしたい。

【館長】 来館者数は入り口に設置しているセンターで集計している。設置から5年が経過し不安定になってきており、新しいものを探しているがなかなか良いものがない。いろいろな所に問合せしている。福岡市総合図書館が昨年度新しいものを導入したところ、来館者の数字がかなり違っていたという新聞記事もあった。そこにも問い合わせたが、まだ回答がない状態。現在は予算や導入時の工事の要不要も勘案して情報収集と検討の段階。

図書館システムについては、生涯学習課が検討することになる。私たちは意見を述べるだけとなる。

【C委員】 一番確実なのは手動カウンターということになると思うが、今さらそこには戻れないだろうと思う。

【D委員】 センサーを設置する方法はいろいろあるのか。

【館長】 現在設置しているものは、ただ据え置くだけでよい。より良い正確な数字を出せるセンサーだと思えるものは、かなり大規模な設置工事が必要

となるため見送っている。

【C委員】 駐車場が近いとか、入りやすいとか付属する施設が市民にとって利用しやすい要素があれば、自ずと相乗効果で図書館の利用率も高くなるし、市民としても利用しやすくなるのでは。近隣の図書館施設で改修が入るような情報は聞いていないか。

【館長】 把握していない。

【D委員】 技術の進歩でより正確なカウンターができてくるとは思う。

【C委員】 近隣施設で改修があるときは情報収集した方がいいのではないかと思う。

【D委員】 図書館は子ども向けのポイント制度を何か導入する予定はあるか。

【館長】 学校との連携や夏休みに子ども向けのスタンプラリーもあるが、昨年度まで実施していたアビスパ福岡応援事業では、大人も参加できるスタンプラリーとして実施したところ非常に好評だった。子どもや孫と一緒に図書館に来た大人が本を借りる動機付けにもなっていた。何か検討はしたいと考えている。

【B委員】 お話し会のポイントカードもある。どの館で参加してもポイントが付くし、5ポイント貯まれば景品がもらえて、しかも各館で景品が違っている。

【E委員】 今のお話に関連して、12ページの読書スタンプ帳について質問したい。小学校との連携が庄内と筑穂の2館だけとなっている。他の地区はどのようなになっているか。

【館長】 この事業は地元の小学校との連携を深める目的がある。小学校は庄内地区が1校、筑穂地区が3校あり、他の地区、特に飯塚地区で言えば学校数がかかなり多いため、こうした連携の取組は庄内か筑穂地区で始めていくことが多い。小学校1年生向けの利用案内を配布しているが、今年度から飯塚地区の小学校にも行くようになったところ。様子を見つつ可能なら飯塚館でも連携をしたいと考えている。今年から飯塚地区の小学校にも利用説明に行けるようになったため、校長とも更に連絡調整を行って連携を深めたい。学校側に趣旨が伝わりにくく、なかなか好意的な対応ではないが頑張っているところであり、全市的な対応についてはもう少し時間をいただきたい。

【E委員】 庄内と筑穂はいろいろな事業や報告で名前があがってくることからすると、比較的連携がとりやすいのだろうと考えている。半面、飯塚、穂波、穎田の3館については連携が取りにくいのか。全市域で連携が取れば、図書館活動は潤いが出るのではないかと思う。相互のメリット・デメリットを考えながら進めていってほしい。

【B委員】 穎田の状況はどうなっているか。

【館長】 穎田は図書館専任の職員がいないが、学校図書館の先生がしっかりした方なので連携は可能かと思うが、飯塚市立穎田図書館との連携ということになると難しいと考えている。穂波は小学校 1 年生向けの図書館利用案内については、開始当初から関わっている。ただ、穂波は職員が 3 名しかいないため、学校まで出向いて行くということになると厳しい状態。読書スタンプについては、図書館を使った調べる学習を全市的に実施するための連携の取り掛かりという意味もあった。穂波図書館は調べる学習の勉強会をしていないこともあって、読書スタンプの実施まで至っていないが、利用案内の説明については穂波館職員が対応できている状態となっている。読書スタンプについては細かいところを調整しながら、全市的な取組となるよう検討したい。

【B委員】 子どもはスタンプやシールが大好き。読書のきっかけ作りになる。

【D委員】 半年か 1 年で、一番スタンプを集めた人に何か賞品のような物を渡すか、表彰するようなことができればいいのではないかと検討してほしい。

(4) 2019 年度図書館事業計画について

資料に基づき、係長より説明。

※主な事業のみ抽出して説明。

【E委員】 夏休みに向けた新入生対象の市立図書館利用案内について聞きたい。図書館職員が各学校に出向いて行くのは大変な状況だろうと推察する。私が学校図書館にいるのなら、こうしてわざわざ出向いてもらって、授業時間なり、別に時間を作るなりでも、説明をしていただけることは非常にありがたい話だと思う。先ほどの事業報告とも関連するが、学校との温度差を感じる。学校図書館司書からすれば、市立図書館が説明に来てくれるだけでも、違った授業のやり方ができるし、気持ち的にも少しホッとするような時間が取れる気がする。授業のカリキュラムとして、連携事業をうまく使えないかと思う。

【F委員】 学校の立場で言うと、ボランティアや学校教育関係者以外の方が学校に入ってくる体制や雰囲気づくりは、その学校の方針によってだいぶ違ってくる。学校の方針として地域の方を巻き込んで一緒にやろうという雰囲気の学校もあれば、学校の授業だけで十分という形の学校もある。要はその雰囲気をどのように作っていくかということにかかると思う。

【E委員】 教育委員会の生涯学習課が図書館を所管しているわけだし、教育委員会として考えれば連携はできるのではないかと思うが。

【F委員】 私もそう思うが、なかなか難しい。

【館長】 庄内小学校出前授業は、小学校の図書授業時間を活用して実施している。利用案内と本の分類まで含めて授業としてきている。学校長の考

えが大きいと感じる。朝読の10分程度の時間ならいいですという学校もあるし、その朝読の時間もない学校もある。代わりに計算の勉強をしている。または各クラスに話すのではなく、3クラスを一緒にしてほしいとの申し出もあるが、100人を超す子どもたちに一度に説明するのはかなり難しい。ただ、これがきっかけとなればという考え方で、子どもたちが理解しやすいようにスケッチブックに図示して目で見て分かるように工夫している。時間が取れるようなら読み聞かせも行っている。

【C委員】特別貸出について聞きたい。小中学校以外の施設等について団体貸出はできないが、特別貸出はできるようになっているのでは。だとしたら、計画書の対象者等に保育園・幼稚園も記載してほしい。紙芝居や大型絵本などなかなか保育園では購入できないような本を貸出してもらえるので本当に助かっている。紙芝居をしたりすることで、子どもたちが穏やかな時間を過ごすことができている。

【館長】団体貸出、特別貸出、おはなし会用資料の特別貸出とあるが、先ほど言及があった大型絵本はおはなし会用の資料となる。保育園・幼稚園にも通常の大きさの絵本や紙芝居などは2週間20冊で小中学校と同様に貸出しをしている。昨年度3月の運営協議会において、保育園・幼稚園は貸出対象となっていることを知らないとの意見があったため、今後周知をしていくこととしている。

(5) 図書館の広域利用について

資料に基づき、係長より説明。

【説明要旨】

- ・平成30年10月より開始して以降の広域利用の状況
- ・桂川町図書館の他自治体からの利用者が想定以上に多い
- ・今後も3自治体協力し、周知に努める
- ・イベントや事業等の周知について相互協力を検討

【E委員】昨年度第3回運営協議会の時に尋ねたが、嘉麻市が登録者数などについては男女別統計になっていない理由について確認したい。嘉麻市の男女共同参画推進課長から直接お話があり、経緯は聞いているが飯塚市事務局からの回答はどうなっているか。嘉麻市が直接私に話をしてきたということは、前回の質問を受けて、生涯学習課が話を繋いでもらったのだと思うが。

【係長】嘉麻市、桂川町との広域利用に関する今年度の第1回の会議でも同様の意見が出た。質問の意図に合致していないかもしれないが、内容を伝えさせていただきたい。図書館の統計については男女別よりも年代別カウントを重視しており、なぜ男女別に分ける必要があるのかという質問が出

ていた。LGBTの観点からも、男女別統計とするのは疑問との意見が出
ていた。

【E委員】ここで深く論議をする内容ではないが、啓発と思って聞いてほし
い。私は生涯学習課が嘉麻市にこの件でお話をしてきていたことは知ら
なかったが、嘉麻市で開催された嘉麻ネットの総会に出席した時に、嘉
麻市の男女共同参画課からお話があり、嘉麻市としてのジェンダー統計の必
要性をきちんと飯塚市にお伝えしていますと。私も図書館についてはジェ
ンダー統計を取る必要があるかは疑問だが、嘉麻市のようにきちんとさ
れているところが、ジェンダー統計を出してきていないということはL
G B Tとかジェンダーの視点から問題があったのかと考えて質問した。基本
的にはきちんとジェンダー統計は取るべきだというのが国の指針として出
ている。なおかつ、飯塚市では男女共同参画推進委員会が毎年市長宛に提
言を出していることを受けて、総務課が可能な限り男女別統計を取るべき
だとして各課に周知徹底をしているという回答を昨年もらっている。それ
を受けて、再度しっかりとジェンダー統計を取ってほしいというお願いを
している経緯がある。嘉麻市としても他の課との温度差はあるが、国の指
針を含めて対応をしてほしいと話をしてきたとのこと。ただ先ほど係長も
言われたように、なぜジェンダー統計が必要なのかといろいろ勉強をして
きた。だが、必要か必要でないかというのは、国の指針となっているもの
を私どもがしっかりと解釈しきれていなくて、これは必要ではないと誰が
決めるのか。長いスパンで見えていったときに、これを男女別の統計を取っ
ていって次の統計資料が必要となった時に飯塚市は男女別統計を出してい
たから良かったね、ここから見えるものが何かあるよね、ということにな
るのではないかと。千葉県の白井市では「性的少数者の人権を尊重する性別
記載およびジェンダー統計に関する指針」という素案が出してある。ジェ
ンダー統計とLGBTは切り離して考えられるものではないということ
だ。自分たちの学習、生涯学習という観点から、私たちはいろいろと問題
点を見つけたときに私どもは図書館を利用する。いろいろなデータを利用
する。私もジェンダー統計が必要だとみなさまにお伝えできる根拠は持ち
合わせていないが、大きくは国の指針としてジェンダー統計は必要であっ
て、飯塚市の行政においても機構のトップから必要だと回答をもらって
いる。そこで他自治体との温度差をどのように埋めていくためには、私たち
委員も勉強し学習しないといけないし啓発ができる状態にしていけないと
いけない。これからも勉強していくので、ジェンダー統計については今後
も状況を教えてほしい。

【E委員】話は変わるが、広域利用が始まったので、嘉麻市に貸出カードを
作りに行った。嘉麻市には大人もスタンプ帳がある。面白い制度だと思う。

で、借りるときはたまたま他の用件で嘉麻市の図書館の近くに行くので借りたものの、返却の時に困る。一番近接の嘉麻市の図書館に返却はしているが、もう少し対応ができればと思う。

【C委員】桂川町の一番利用者が増えているのは、ちょうど中間に位置しているからか。

【係長】分析はしていないが、それは一つの要因かと考えている。

(6) その他

①飯塚市生涯学習の体系について

資料に基づき、課長補佐より説明。

【E委員】随時意見を募集しているということだが、個人的な意見でもいいのか。

【課長補佐】結構です。いただいた意見の内容を検討し、今後の改訂版へ反映するかを判断する。

②庄内ワークショップの進捗状況について

資料なし。口頭で現状とこれからの予定を課長から説明。

【B委員】穂波図書館は何年か前に支所へ移転するような話があったが、その後どうなっているか。

【課長】平成28年に話があったと思う。今その話はなくなっている。交流センター等の移転も含めての話だったと思うが、交流センターは現在地で改修工事とすることが地元の意向で決定している。

【D委員】地元自治会長や住民の意見でそうなった経緯がある。

③子ども読書活動推進計画のアンケート結果について

資料なし。係長から進捗状況について説明。

※回答率が低く、集約まで至っていない。時間運営委員会で集約結果を提示したい。

【委員】質問・意見なし。

④空調機修繕工事について

資料なし。係長から完了報告。

【委員】質問・意見なし。

5 閉会 15:52

<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第（事前配布） ・ 令和元年度 飯塚市教育施策要綱（事前配布） ・ 令和元年度 所管事務の概要（事前配布） ・ 2018年度 飯塚市立図書館利用状況・業務報告（事前配布） ・ 2019年度 事業計画（事前配布） ・ 図書館の広域利用について（当日配布）
<p>公開・非公開の別</p>	<p>1 <input checked="" type="checkbox"/> 公開 2 <input type="checkbox"/> 一部公開 3 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 0人)</p>
<p>その他 (非公開理由等)</p>	